

2016 年度事業報告

I. 事業概要

2016 年度は児童福祉法が改正され、我が国の子ども家庭福祉にも、子どもの権利尊重に加え、虐待防止、家庭支援が盛り込まれ、国連「子どもの権利条約」に則ることが第一条に謳われた。

6月にインスブルグで開催された「SOS 子どもの村インターナショナル(以下 SOSCVI)」の総会で、「SOS 子どもの村 JAPAN」は正会員として正式に承認された。本年度は当法人が目標としていた「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンとする、SOSCVI の一員として出発した記念すべき年となった。

今後は「SOSCVI の総会への参加と投票」「名称とロゴの使用」「連合の活動に関する情報の入手」とともに、「SOSCVI の法令を遵守し、品質基準に準拠する」ことが求められる。

SOSCVI は 2030 年を見据え、NO CHILD SHOULD GROWN UP ALONE(子どもは決してひとりきりで育つようなことがあってはならない) として、新たな戦略” STRATEGY 2030” を決定した。

11 月には、SOSCVI の基本方針や組織の活動、機能等の習熟を目的に、SOSCVI アジアオフィス(インド/ファリダバード)を訪問し、多くの情報交換と共有化を行った。

SOSCVI 加盟を機に、その一員にふさわしい組織体制とするべく、また、「子どもの村東北」との合併を目ざし、組織の体制強化を図るため、事務局に新たな企画総務部を設置した。当面の間は、事務局内で定例的に会議を行っている。

Ⅱ 事業報告

1. 会議

会 議 名	実施回数	計画
総 会	2 回	2 回
理事会	6 回	4 回
執行会議（執行機関の総合マネジメント会議）	4 回	6 回
子どもの村福岡運営委員会	2 回	4 回
子どもサポート部会	12 回	12 回
資金開発部会	8 回	12 回
コミュニケーション部会	13 回	12 回
SOS 子どもの村 JAPAN・子どもの村東北 合併準備委員会	3 回	3 回

※子どもの村福岡運営委員会は、会議体の見直しにより 11 月 9 日が最後の開催となった。
以降は、執行会議がその機能を引き継ぐこととなった。

2. 事業

1) 親の養育を受けられない子どもたちの養育

(1) 子どもの村福岡の運営

子どもの村福岡は、「代替養育とその支援のモデル」をめざして、子どもたちの家庭養育と、実家族との連携を深め家庭復帰に向けて努めてきた。また開村 6 年を経過し顕在化してきた養育者の疲弊への対応や村運営の充実に取り組んだ。

(ア) 育親の確保と子どもたちの養育

年度当初は、4 家庭、子ども 10 人であったが、計画どおりに 5 月に新しい育親が 1 名加わり、子どもの受入れが始まった。新しい育親は年度末までに 2 人の子どもを受託している。

一方、育親 1 名から、養育中の子ども 2 人とともに、年度末をもって転居退村の申し出があり、希望に沿うこととした。その結果、年度末の村の状況は 4 家庭、子ども 10 人となった。また、10 人の短期預かり(ショートステイ)の子どもを受け入れた。開村以来 7 年間で養育した子どもの数は、短期預かりを含め 63 人となる。

(イ) 子どもの意見を尊重した「自立」に向けた養育

自立が予定される子どもについて、本人の意見を尊重しながら具体的な自立計画に取り組んでいる。

(ウ) チームでの養育

村長を中心としたファミリーチームミーティングを活用し、チームでの養育を発展させる。

ファミリーチームミーティングを村運営の中心と位置づけ、各家庭毎の隔週ミーティングが定着してきた。

(エ) 実家族との交流

児童相談所とともに、学校、幼稚園、療育機関等関係機関と連携し、計画的に交流を進めた。

実家族との交流の子ども <週 1 回 1 人> <月 1 回 1 人> <月 2 回 3 人>

(オ) 専門家サポートの充実

専門家の支援により、自立支援会議や治療的ケアなどのサポートを行った。

- ・自立支援会議 1 1 回
- ・プレイセラピーを受けている子ども 月 2 回 3 人
- ・児童相談所との支援会議・交流会 年 1 回 1 1 月 1 1 日

(カ) 村の運営体制の充実

月 1 回、村運営会議や、全員で情報共有し協議を行う「村ミーティング」等を行うなど、運営体制の充実に務めた。

12 月から、チーム作りの強化のために、外部講師の佐藤衛氏による対話研修を

行っている。また、ファミリーアシスタント（FA）のチーム制による支援や育親の休養日などの定着など、家庭支援の充実を図った。

(キ)地域とともに育てる

従来、子どもの受け入れ年齢は、福岡市と今津自治協議会の三者の覚書で、「就学前の子ども」としていたが、地域との協議が進み、小学2年生までの年齢延長が合意された。

また、今津・子どもの村福岡連絡協議会を年2回開催し地域との連携を深めるほか、子どもたちや育親、スタッフも地域行事に積極的に参加、地域の子として育っている。

(ク)支援者、ボランティア、メディアとの連携

民生・児童員などの地域役員、行政、専門家等多くの訪問者を迎えている。

「社会貢献表彰」や、「エクセレント NPO 大賞」受賞などもあり、メディアの取材も多くなっている。

また、村の研修の際の託児や草取り、企業・団体のボランティアによる支援、「子どもの村ボランティアネットワーク(こぼら)」など多くのボランティアに支えられた。

<訪問者の状況>

(人、件)

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	計
人数	1,836	1,433	1,753	1,244	1,377	996	966	9,605
件数	225	155	166	166	134	108	78	1,032

<主なボランティア活動（毎年）>

株式会社西日本ビル代行	清掃
福岡市インキュベートOB会	草取り、清掃
九州電力株式会社 発電本部	草取り、工作教室
一般社団法人福岡県海洋スポーツ協会	海の日招待
株式会社サニクリーン九州	清掃
株式会社サン電工社	餅つき
福岡舞鶴高等学校	草取り、清掃

(ケ)建物、村庭、備品の管理、保全

福岡城西ロータリークラブの支援により 5 軒の家族の家の外壁塗装工事を行うほか、たまごホールの空調設備の修理をおこなった。

(2) 子どもの村東北との連携支援

(ア) 村の運営管理への支援

組織運営、資金開発、研修などの支援を瀧山、坂本、松崎理事が適宜行っている。また、8月には、坂本理事、松崎理事、山本センター長が、東北で理事研修を行った。

(イ) 人材養成への協力

新規雇用された育親については福岡の育親家庭で宿泊研修を行った。

(ウ) センター事業への支援

東北の「もう一つの絆フォーラム」(2月)において、松崎理事が基調講演を行った。

2) 地域で支援を必要とする子どもと家族への専門的ケアと支援

(子ども家庭支援センター)

(1) 平日夜間、土日祭日相談事業

(ア) 支援体制の充実

社会福祉士1名を加えた4名体制で子どもと家族への支援を充実させる予定であったが、新規採用者の予想外の早期退職により計画どおりにいかなかった。

(イ) 相談員の質の向上

深刻な課題を抱える子どもと家族を支援できるよう、久留米大学医学部神経精神医学講座助教の松岡美智子医師にスーパーバイズ(助言監督)を依頼し、相談員の質の向上を図る体制を整えた。

(ウ) 子どもと家族のグループセッションの開始

通常相談員と利用者の1対1の相談に加え、試行的に複数の利用者によるグループセッションを実施した。8家族を対象に、7/24、8/7に子どもと親のグループセッションを実施し、8/22～24の2泊3日チャレンジキャンプに繋げた。12/11にはキャンプに参加した親と子のグループセッションを実施し、ボランティアも交えて昼食を囲みながら振り返りをおこなった。

(エ) 家族アセスメントツールや、評価システムの開発

SOS子どもの村クラーゲンフルト MoFa が使用している家族チェックリストを翻訳し、日本版を作成したが、まだ検討の余地は多く、総括するまでには至っていない。

(オ) 関係機関や地域住民との連携

「子どもの権利条約」の条文を記載したリーフレットを1000部作成し、12月より子どもや家族はもとより関係機関などにも積極的に配付し、児童福祉法改正の主旨を啓発した。

12月からは、地域の子どもや家庭を支援している関係者を対象に KKB2016 (子どもと家族の勉強会 = Kodomo to Kazoku no Benkyoukai 2016) を当センターで開始し、計4回の勉強会を開催した。

(2) 里親普及支援事業

西区校区里親普及ネットワーク事業が最終年度を迎えた。

3年計画で実施された本事業により、里親登録終了者が2名、登録手続き中の方も複数名出てきた。今年度、全区展開には至らなかったが、次年度は、里親を増やすとともに、里親によるショートステイの仕組へと発展させること、全区での展開をめざすことが関係者で再確認された。

(3) ショートステイ・一時保護

子どもの村福岡の育親家庭で、10人の子どものショートステイを受入れる事ができたが、断わらざるを得なかった子どもたちもあり、今後さらに、体制を強化していく必要がある。

3) 子どもと家族支援のプログラム開発と人材養成

(1) SOSプログラムの翻訳、啓発・普及

SOSCVIのCHILD PROTECTION POLICY(以下CPP)と行動規範を翻訳し、職員及び育親に研修を行った。行動規範については、役職員及び育親が内容を理解したうえ、署名した。CPPについては、SOSCVIが作成した手続きフロー図を翻訳し、周知徹底を図った。

(2) 里親養育の質の向上をめざすプログラム開発 (日本財団助成事業)

イギリスで開発された里親研修プログラムである「フォスタリング・チェンジプログラム」研修会を、福岡、熊本のグループで実施し、評価の高いプログラムであることが実証された。今後、全国展開を目指して関東でチーム組成が行われており、子どもの村も全国展開の状況を見ながら、九州地域で継続実施していく。

(ア) 企画委員会開催

第1回企画委員会 4月22日

第2回企画委員会 10月15日

第3回企画委員会 2017年4月21日

実施されたプログラムの評価、国内普及に向けての検討を行った。

<企画委員メンバー>

上鹿渡 和宏 (長野大学 社会福祉学部社会福祉学科准教授)

藤林 武史 (福岡市こども総合相談センター所長)

渡邊 守 (NPO法人 キーアセット ディレクター)

河野洋子 (大分県中央児童相談所)

河尻 恵 (福岡学園)
平田 ルリ子 (全国乳児福祉協議会会長)
天久 真理 (福岡市里親会 会長)
岩本 健 (福岡市里親会 副会長)
坂本 雅子 (SOS 子どもの村 JAPAN)
松崎 佳子 (SOS 子どもの村 JAPAN)
山本 裕子 (SOS 子どもの村 JAPAN)
田代 多恵子 (SOS 子どもの村 JAPAN)

(イ) プログラムの実施

- a 福岡市児童相談所とともに、里親へのプログラム研修を行った。

対 象：福岡市の養育里親、子どもの村の育親 計6名

時 期：5月27日～8月5日 12回コース、週1回、10時～13時

場所：えがお館

里親のモチベーションは非常に高く、出席率は97%であった。

9月、12月にフォローアップ研修を実施。

- b 他グループ活動支援

熊本チーム、大分、福岡市里親会チームを松崎、杉村で支援した。

(ウ) ファシリテーターのためのフォローアップ及びコンサルテーション研修

第1回 5月20日

第2回 9月2日

第3回 2月27日イギリスの講師

(キャシーさん、キャロラインさん) によるコンサルテーション研修

(3) 子どもプログラムの開発(積水ハウス助成事業)

(ア) 専門研修時の子どもプログラム

里子同士の関係形成、自尊感情向上のために主体性が尊重された遊びの体験ができるケアプログラム

対象：福岡市・福岡県の里子

実施回数：3回 (のべ95名が参加)

内容：研修を受けたサポーターとともに、自由遊び、創作遊び、野外遊びなどを行った。このプログラムのボランティアサポーター養成を3回実施し、のべ69名が参加した。

(イ) 里親・里子交流キャンプ

福岡市の里親支援関係者で実行委員会を組成した。里親・子支援として、また、ボランティアの支援者が養成されたことなど、成果のある事業であるが、遠隔地でのキャンプであるため村の事業としては、負担の大きなものになった。今後、

近隣地で試みることにしている。

日時：2015年9月17日～19日(2泊3日)

場所：国立山口徳地青少年自然の家

参加者：里子29名 里親20名 13家庭

サポーター 45名

(4) フォスターユース支援の検討

子どもの自立とフォスターユースの支援方法について検討することにしてきた。アメリカ、シアトルで活動しているフォスターユース(IFCA)の来日の機会をとらえて、IFCAの活動について学ぶ研修会を実施した。

(5) 家庭養育推進のための人材養成

(ア) 里親、ファミリーホーム専門研修会(俱進会助成事業)

育親をはじめとしたスタッフ、里親・ファミリーホームの養育者を対象に講義とケアスタディを実施した。

第1回 10月1日 講師 大分大学教授 相澤 仁

「思春期をともに乗り越える～あたりまえのこと(創意工夫)ができる専門性」参加者 32名

第2回 2月5日 講師 大阪教育大学教授・児童精神科医 岡本正子

「思春期と性～社会的養護の子どもの性の理解と対応～」参加者 27名

(イ) 公開研修会 (俱進会助成事業)

社会的養護の現状と課題、SOS子どもの村の取組について、一般市民への理解を広めるとともに、子どもの村のスタッフ、ボランティアなどの人材養成と確保をめざして実施した。

第1回 6月12日 講師 九州大学教授 松崎佳子

「家族と暮らせない子どもたちとSOS子どもの村の家族支援」 -参加者 35名-

第2回 11月13日 講師 九州大学病院 講師 山下 洋

「親と暮らせない子どもを理解する～愛着と喪失の視点から」 -参加者 41名-

第3回 1月22日 講師 SOS子どもの村 JAPAN 橋本 愛美

「子どもの権利～家族と暮らすこと・遊ぶこと～」 -参加者 39名-

(6) 家庭養育推進のための多分野ネットワークづくり(俱進会助成事業)

(ア) 多分野ネットワークの構築

家庭養育推進のために、各種専門家(小児科医、精神科医、弁護士など)への啓発をすすめる、専門家との連携・支援の多分野ネットワークの構築をめざした。

メンバー：小児科医、精神科医、弁護士、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどの専門家、児童相談所、里親会、乳児院児童養護施設協議会

(イ) 研修会の開催

日時：平成 29 年 3 月 21 日（火）

「精神病の親をもつ子どもと家族への支援」 参加者 199 名

講師 土田 幸子先生（鈴鹿医療科学大学）

藤林 武史先生（福岡市こども総合相談センター）

4) アドボカシー活動

子どもたちの権利を保障し、最善の利益を実現することをめざして、SOS 子どもの村の実践を踏まえた社会への提言をすすめる、子どもの意見表明をはじめとする「子ども参加の権利」の意識を根付かせていくために、東京フォーラム、九州フォーラムを行った。

(ア) SOS 子どもの村 JAPAN 第 5 回「東京フォーラム」 -参加者 147 名-

「より良い里親養育と養育の質の向上をめざして」 -イギリスの里親支援に学ぶ-

司会 上鹿渡 和宏（長野大学社会福祉学部准教授）

講演 1 「我が国における里親推進のこれから」

～子どもの家庭養育推進官民協議会のめざすもの～

講師：子どもの家庭養育推進官民協議会 副会長 木ノ内 博道

講演 2 「イギリスの里親制度と支援プログラム」

講師： キャシー・ブラッケビィ/キャロライン・ベンゴ

（キングスカレッジロンドン精神医学研究所 サウスロンドン・モーズレートラスト
臨床スペシャリスト・トレーナー）

実践報告「フォスタリングチェンジ・プログラムの導入」の試み

報告者：松崎佳子（SOS 子どもの村 JAPAN 理事・九州大学人間環境学部教授）

日時：2017 年 2 月 19 日（日）13:00-16:30

場所：日本財団 大研修室（東京都港区赤坂 1 丁目 2 番 2 号日本財団ビル）

主催：SOS 子どもの村 JAPAN

共催：日本財団 後援：子どもの家庭養育推進官民協議会

(イ) SOS 子どもの村 JAPAN 第 5 回「九州フォーラム」 -参加者 99 名-

日時：2017 年 2 月 26 日（日）13:00-16:30

場所：福岡市こども総合相談センター 7 階

主催：SOS 子どもの村 JAPAN

どちらの会場も予想を上回る参加者があり、参加者に対するアンケート結果からも、里親支援や、フォスタリングチェンジに高い関心のある方が多いと思われた。イギリスの里親制度や支援について学び、今後、わが国の里親養育推進のための課題について理解することができた。さらに、先進国であるイギリスの制度を学び、わが国の里親養育の質の向上をめざす必要がある。

(ウ) 学会発表・講演会

活動実績が知られてきたこともあり、講演依頼や学会発表が多くなっている。

年月	学会名・研修会名(場所)	講演/論文/執筆テーマ	担当
2016年5月	福岡市南区主任児童委員会委員勉強会	家族と暮らす子どもの権利 ・SOS子どもの村JAPANの活動	坂本
2016年6月	日本子ども家庭福祉学会	社会的養護における里親のコンピテンシーに関する調査研究	松崎
2016年6月	子どものころ研修会	SOS子どもの村の活動から見えてきた課題	松崎
2016年6月	西区暮らしの中の人権講座	家族と暮らす子どもの権利－国連の『代替養育』が意味するもの－	山本
2016年7月	高松市民民生委員児童委員連盟大会	すべての子どもに愛ある家庭を	坂本
2016年7月	全国児童家庭支援センター実務者研修会	第41期資生堂児童福祉海外研修報告	橋本
2016年7月	慈愛会子ども・家庭養育支援研究会	基礎講座「子どもの権利とは」	山本
2016年8月	福岡市教育委員会学校職員全休人権教育研修	家族と暮らす子どもの権利 ・SOS子どもの村JAPANの活動	坂本
2016年8月	子どもの村東北役員研修会	国連子どもの権利条約と子供の代替養育に関するガイドラインについて	山本
2016年9月	玄洋小学校成人教育後援会	すべての子どもに愛ある家庭を～A Loving Home for Every Child～	山本
2016年10月	里親(子どもを支える者)研修会(長野)	家族と暮らす子どもの権利 ・SOS子どもの村JAPANの活動	坂本
2016年10月	全国児童家庭支援センター全国研修会	第41期資生堂児童福祉海外研修報告	橋本
2016年11月	教育と医学シンポジウム	社会的養護におけるアタッチメントの問題	松崎
2016年11月	西区要保護児童支援地域協議会	虐待を受けた子どもの心の発達と理解	松崎
2016年11月	大分県里親研修	フォスターリングチェンジプログラム～子どもとの関係を改善し、問題行動に対応する方法	松崎
2016年11月	香川県児童虐待防止講演会	危機にある子どもと家族を支援する－SOS子どもの村JAPANの2つのミッション－	山本
2016年11月	日本子どもの虐待防止研究会	子どもの権利尊重にもとづく子ども家庭支援とは	橋本
2016年12月	日本フォスターケア研究会	これからの里親養育の在り方	松崎
2016年12月	福岡県臨床心理士会研修	スクールカウンセラーに必要な福祉の基礎知識	松崎
2016年12月	市民フォーラム第1分科会シンポジウム	児童福祉法改正について	山本
2016年12月	KKB第1回	子どもの権利	児家セン
2016年12月	明治安田こころの健康財団集中講座:アタッチメントとトラウマの理解と支援	危機にある子どもと家族を支援する－『代替養育』への移行を防ぐ児童福祉機関の立場から	山本
2017年1月	スマイルフォーミーティング(山口)	里親・里子支援 リフレッシュキャンプ	橋本
2017年1月	人権セミナー・今津公民館	子どもの村の家庭教育について	野村
2017年1月	子どもの権利研究会第3回総会記念講演	子ども支援と子ども親	山本
2017年2月	もう一つの絆フォーラム(東北)	いま、なぜ家庭養護か～家庭養護を進めるために必要なこと	松崎
2017年2月	第30回福岡市保育研究大会	家族と暮らす子どもの権利 ・SOS子どもの村JAPANの活動	坂本
2017年2月	月隈校区人権尊重推進協議会講演会	家族と暮らす子どもの権利 ・SOS子どもの村JAPANの活動	坂本
2017年2月	KKB第2回	The best interests of the child	児家セン
2017年3月	九州大学退官記念講演会	危機にある子どもと家族への支援 ～児童福祉領域に求められる心理職	松崎
2017年3月	KKB第3回	個人情報保護と守秘義務	児家セン
2017年3月	福岡発達・障害懇話会3月例会	地域で困難を抱える子どもと家族を支援する	山本
2017年3月	KKB第4回 Final session－IFCAと共に	子どもの権利とユースアドボカシー	児家セン

5) 子どもと家族に関する情報提供・啓発事業

狭義の情報提供・啓発だけでなく、組織内部での情報共有までを見越した方針を掲げ、取り組んだ。また、使用ツール等の現状の評価と分析を中心に行い、特にオンラインツールの強化に向けて、ウェブサイトの改修に着手した。

(1) オンラインツールの強化

英語紹介ページを作成するとともに、メールマガジンを試行。また、ウェブサイトのアクセス数向上とともに、資料請求やオンライン寄付への実行率を向上させるため、流入数の多いページの改善に集中的に取り組む計画であったが、ブログの更新や、固定ページの若干の修正に留まった。前年度に続き現状の分析を行った上で、ユーザビリティや情報発信力の強化に向けて一部改修に着手した。

(2) ニュースレターの発行

計画どおり、支援者向けのニュースレターを2016年5月、8月、12月に各4000部発行した。

(3) アニュアルレポートの発行

ニュースレターに集約させていた活動報告を冊子として個別にまとめ、支援者への説明責任を果たし、継続的な関係構築を行うために、2015年度のアニュアルレポートを発行した。

(4) メディアとの協働

フォスタリングチェンジ・プログラムの普及や2016年度「エクセレントNPO大賞」受賞について新聞で掲出されるとともに、クラウドファンディングを通じた情報発信により支援者を獲得した。また育親募集についてテレビ放送でとりあげられ、いずれも一定程度の反響があった。パブリシティは費用対効果が高く、今後もメディアへ適切な情報提供を行い、さらなる関係強化を図ることが必要。

(5) 新規支援者獲得のためのキャンペーンの実施

10月・11月・12月の寄附の増加が見込まれる3箇月に合わせたキャンペーンに取り組む計画であったが、WEBメディアと連携したキャンペーン実施など企画・検討を行ったが、実施まで至らなかった。効果的な実施に向けて、今後も支援者の分析や検討が必要である。

(6) 各種広報ツールのリニューアル

リーフレットやパンフレット等の広報ツールを状況に応じて柔軟にリニューアルを計画したが、担当者不在の時期などあり着手できなかった。

(7) 広告

新聞広告の掲出量は充分ではなかったが、インターネット上の広告効果として、Facebookでの広告を実施した。

これらの効果的な掲出や、効果測定については、今後も検討が必要である。

(8) 街頭キャンペーン

年度当初に熊本大震災が発生し、子どもの村としての街頭活動を一時控えた。8月より、学生やボランティア(こぼら)の協力により、ヤフオクドームやコンサート等のイベント会場にて、キャンペーン活動を実施したが、新規イベントの発掘にはつながらなかった。

(9) その他

子どもと家族の支援への理解、そして本法人における新たな支援者の獲得を目的として、2014年12月に発行した広報誌『かぞく』を、前年度に引き続き、講演会や研修会など各種イベントで紹介するとともに販売した。個人や団体による注文が、発行以降、継続している。

※累計販売実績(発行部数 5,000部) 残部数 616部 2017年3月末現在

6) 子どもに関わる個人・団体・企業・その他関係機関との連携

(1) 福岡市里親養育支援共働事業(「新しい絆」プロジェクト)

(ア) 「新しい絆」フォーラム開催

第1回「特別養子縁組を知っていますか？」

(2016年9月) 101名参加

基調講演：林裕康(日本女子大学教授)

永続的な絆を保障する制度の周知。子どもの立場からの養子縁組への再考を提起。

第2回「養育家庭で共に暮らす子どもたち・里親の思い」

(2017年3月) 108名参加

基調講演：山本真知子(大妻女子大学講師)

実子から見た里親家庭。里親養育支援には、実子支援の観点が必要との気づき。

(イ) 里親カフェや里親カレッジの開催

里親カフェ:里親のみの交流、学びあいの場として4回開催。参加者10名~15名

里親カレッジ:里親制度についての公開研修:4回開催。参加者20名程度

(ウ) ファミリーシップふくおか(実行委員会) 7回開催

市民ネットワークと行政との協働による推進体制が、社会的養護の社会化、里親委託率の飛躍的向上(2016年度 33.3%⇒35.3%)をもたらす推進力になった。乳幼児里親ルート、地域短期里親、産後ケアに取り組むチームの参加で、今後、重層的な効果を期待

している。

(エ) 里親委託等推進委員会 3回開催

里親制度の理解、関係機関との連携、地域展開への協力関係の構築めざして意見交換。

(2) 子どもにやさしいまちづくりネットワーク

(ア) ネットワーク会議：11回開催 平均29名参加

ミニ講座と意見交換、市民フォーラム準備を通して、子どもの権利条約の浸透を図ってきた。

(イ) 第15回市民フォーラム「子どもの権利を保障する社会の仕組みづくり」

開催日時：12月3・4日 参加者306名

2016年の児童福祉法改正を受け、子どもの権利を尊重する社会の仕組みづくりをめぐる。

(ウ) 合宿研修の実施

開催日時：8月25・26日（脊振山麓 習遊館）参加者9名

ネットワークを生み出し支える人材の育成を目標に、子どもの権利条約の理念を共有。

(3) 福岡市子ども虐待防止活動推進委員会

(ア) 推進委員会 2回開催

福岡市で立て続けに起きた幼児の虐待死事件をきっかけに2010年に設立されて7年目。福岡市関係部局と福岡市医師会、保育協会、NPOなどの28団体の代表で構成。5月、9月の2回開催、虐待防止の現状、推進策について意見交換した。

(イ) 企画ワーキンググループ 年4回

推進委員会の活動企画、検討

(ウ) 第7回子ども虐待防止市民フォーラムの開催

開催日時：8月4日 550名参加

「忘れられた子ども」のいないまちをめざして～社会のネグレクトを許さない～

基調講演：松本伊智朗（北海道大学大学院教育学研究教授）

パネルディスカッション：子ども時代の虐待から生き延びたサバイバーと、地域の居場所づくりに取り組むNPO法人 はあとスペース による衝撃的なトーク。

(エ) 11月児童虐待防止活動推進月間の取り組み

子ども虐待防止活動推進委員会の参加団体が取り組むキャンペーンや研修などの周知。市民・行政が共働で取り組む天神でのユニークな街頭キャンペーン(11月3日開催)

7) 資金開発・支援者リレーションズ

(1) 資金開発の強化

2016 年度も、支援者基盤を充実強化するために、支援会員数について目標を設定した。

(ア) 支援会員目標

	実績(2017年3月末)	目標(2017年3月末)
個人	2115人 前年比 76人増	2200人 前年比 161人増
企業・団体	368社 前年比 4社増	374社 前年比 10社増

コミュニケーション部との十分な連携に至らず、個人支援会員獲得キャンペーンの実施には至らなかった。「エクセレントNPO大賞」や、各種取材によりマスメディアへの掲出はあったものの、十分な支援獲得には至らず今後に課題を残した。

支援依頼を目的とした、企業への新規アプローチは充分とは言えず、次年度も継続的に取り組むべき重要な課題である。

(イ) チャリティイベントの実施

SOS 子どもの村 JAPAN 支援・ストラディヴァリウスコンサート 2016

日時：2016年9月12日(月)19:00～

場所：福岡シンフォニーホール

主催：日本音楽財団

日本音楽財団及び、SOS 子どもの村 JAPAN 支援・チャリティコンサート実行員会(千鳥屋総本舗、TVQ)の主催により予定通り開催され、招待者も含めた来場者数は 1496 名となった。

コンサート運営主体の日本音楽財団より、チケット売上 8,590,400 円及び、協賛企業 10 社による協賛金 3,000,000 円の計 11,590,400 円について、寄附を頂き、予算を上回る収入となった。

その他、2 年連続で福岡市医師会オーケストラによるチャリティコンサート(10 月 30 日:福岡シンフォニーホール)、ガリビヤン・クルンク ダンスカンパニーによるチャリティダンスイベント(12 月 25 日:ももちパレス大ホール)、博多管弦楽団チャリティコンサート(2 月 4 日:あいれふホール)を開催して頂いた。

(2) 支援者リレーションズ

9 月 11 日、ストラディヴァリウス・チャリティコンサートの演奏者による、前日リハーサル会場(アクロス円形ホール)において、支援会員感謝の会を実施した。1 部 2 部合計約 150 名の参加者を数えた。

また、3月15日に、支援会員感謝の会(企業団体向け)を開催し16団体の参加があったが、支援者のニーズに沿った内容であるか、次年度以降に課題を残した。

(3) 支援ボランティア

2016年度は新規登録者103名を数えた。ボランティア登録時に丁寧な対応を心掛けたことにより、登録後のボランティア活動参加者が増加した。既登録者に対しても積極的な参加を呼びかけた事により、数多くのボランティアが活動に係わり、当団体の活動を支えることとなった。

居住地が遠方のボランティアとのコミュニケーションのあり方については、十分な検討がなされなかったため、今後の継続課題とする。

8) 支援団体との連携

(1) 子どもの村福岡後援会

2015年度をもって、経済的支援が終了したため、2016年6月9日に開催された後援会理事会において側面的な支援を依頼、チャリティイベントへの後援や、ボランティア参加等による、様々な側面的支援を頂いている。

(2) 子どもの村福岡を支援する小児科医の会

継続的な支援依頼を行い、目標を上回る支援寄付を頂いた。

2016年度 活動実績一覧

年月	全体	子どもの村福岡の運営	子どもサポート部
行事、会議等(定例)	理事会 原則年4回	村運営会議 月1回 11回開催 村ミーティング 月1回 12回開催 自立支援会議 11回開催 たまご広場(子育てサロン) 毎週(12月から第2・4)火曜日計41回実施 イエローシートキャンペーン(伊都イオン)原則毎月11日	子どもサポート部会(月1回)
4月	2 臨時総会 12 第1回執行会議 23 第1回理事会	7 机椅子のヤスリかけ(ハードロックカフェ) 9 草取り・机椅子のエス塗(インキューブOB会) 23 草取り(草取り隊♪)	5 福岡市との協議 (子ども家庭支援センターについて) 22 フォスタリングチェンジ企画委員会① 28 リフレッシュキャンプ実行委員会
5月	17 監事監査 23 子どもの村福岡運営委員会	8 草取り(草取り隊♪) 12,18,19 窓・エアコン掃除(西日本ビル代行) 19 福祉村村議会 21 歯科検診(本山茂夫)	20 フォスタリングチェンジ・フォローアップミーティング① 27 フォスタリングチェンジプログラム開始(～8/5)
6月	18 第2回理事会 18 定時総会	11,26 草取り(草取り隊♪)	12 公開研修会① 21 西区校区里親普及ネットワーク会議①
7月	1 理事会	8 地域連絡協議会 14 福祉村村議会 24 草取り(草取り隊♪)	5 里親って?カフェ 16 リフレッシュキャンプサポーターセミナー① マイコぶろ①(子どもプログラムセミナー) 24 グループわくわく①(児家セン)
8月		2 草取り(舞鶴高校) 28 草取り(草取り隊♪)	2 リフレッシュキャンプ実行委員会 7 グループわくわく②(児家セン) 22-24 チャレンジキャンプ(児家セン) 27 リフレッシュキャンプサポーターセミナー②
9月	2 SOS韓国(大邱)来村交流 10 第2回 執行会議 10 第3回 理事会 17 SOS子どもの村JAPAN 子どもの村東北合併検討委員会	8 福祉村村議会 23 パーベキュー招待(城西ロータリークラブ)	2 フォスタリングチェンジ・フォローアップミーティング② 17-19 リフレッシュキャンプ 西区校区里親キャッチフレーズ募集
10月	20 外部監査 31 子どもの村福岡運営委員会	15 清掃(サニクリーン九州) 18 子育てフェスタ2016(西区) 23 パーベキュー(ボランティア) 29 清掃(インキューブOB会)	1 専門研修会① 3 西区校区里親キャッチフレーズ表彰式 8 リフレッシュキャンプ振り返りセミナー 17 リフレッシュキャンプ実行委員会 18 西区子育てフェスタ(里親普及)
11月	2 監事監査 9 子どもの村福岡運営委員会 20 第4回理事会 11/27～11/2 SOSCVIアジアオフィスミーティング	1 西区オレンジリボン街頭キャンペーン 3 草取り(アガベ教会) 19 草取り・清掃・工作教室(九州電力 発電本部) 29 福岡市児童相談所との支援調整会議・交流会	2 里親って?カフェ(イオン伊都店) 5 マイこぶろ② 13 公開研修会② 17 リフレッシュキャンプ実行委員会 18 フォスタリングチェンジ企画委員会② 22 里親って?カフェ(姪北公民館) 25 ジャスピカン(パネル展示) 29 西区校区里親普及ネットワーク会議②
12月		18 草取り(草取り隊♪) 23 餅つき(サン電工社) 27 草取り・清掃(舞鶴高校)	6 里親って?カフェ(愛宕公民館) 9 KKB① 11 グループわくわく同窓会(児家セン) 13 リフレッシュキャンプ実行委員会 16 里親って?カフェ(老岐公民館) 17 マイこぶろ②(子どもプログラムセミナー)
1月	20 第3回執行会議 21 SOS子どもの村JAPAN 子どもの村東北合併検討委員会	11 十一日祭 12 福祉村村議会 21 公民館人権セミナー 27 今津地域連絡協議会 28 草取り(草取り隊♪)	20 KKB② 22 公開研修会③ 29 マイこぶろ③(子どもプログラムセミナー)
2月		25 草取り(草取り隊♪)	5 専門研修会② 14 里親って?カフェ(周船寺公民館) 19 東京フォーラム 23 校区里親普及ネットワーク会議 26 九州フォーラム 27 フォスタリングチェンジ・コンサルテーション 27 フォスタリングチェンジ企画委員会③ 28 里親って?カフェ(区役所)
3月	2 監事監査 3 第4回執行会議 4 第5回理事会	26 草取り(草取り隊♪)	10 KKB③ 21 福岡県精神科病院共催学術講演会 23 KKB(IFCAとともに)

年月	コミュニケーション部会	資金開発部	諸団体との連携
行事、会議等(定例)	コミュニケーション部会(月1回)	資金開発会議(月1回)	
4月	7 コミュニケーション部会 16 草の根cafe 19 コミュニケーション部会	11 資金開発部会	11 子どもにやさしいまちづくりネットワーク
5月	18 コミュニケーション部会 30 ニュースレター vol.7 発行	26 資金開発部会	9 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 10 ファミリーシップふくおか
6月	3 コミュニケーション部会 18 草の根cafe 21 コミュニケーション部会	16 資金開発・コミュニケーション合同部会	9 子どもの村福岡後援会理事会 13 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 18 こぼらミーティング
7月	9 草の根cafe(東急ホテル) 12 コミュニケーション部会		11 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 28 ファミリーシップふくおか
8月	1 ニュースレター vol.8 発行 26 草の根セミナー(ハードロックcafe)	18 資金開発会議 27,28 ヤフオクドーム募金	8 子どもにやさしいまちづくりネットワーク
9月		9 資金開発会議 11 支援会員感謝の会(アクロス円形ホール) 12 SOS子どもの村JAPAN支援・ストラディヴァリウスチャリティコンサート	3 こぼらミーティング 5 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 6 ファミリーシップふくおか 24 ファミリーシップふくおかフォーラム
10月	4 コミュニケーション部会 25 コミュニケーション部会	28 資金開発部会 30 福岡市医師会チャリティコンサート	3 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 17 ファミリーシップふくおか 23 こぼらパーベキュー開催
11月	7 コミュニケーション部会	20 資金開発会議	3 福岡市虐待防止キャンペーン 14 子どもにやさしいまちづくりネットワーク
12月	6 コミュニケーション部会 20 ニュースレター vol.9 発行	25 ガリビヤンクルンク ダンスカンパニーチャリティダンスイベント	3-4 子どもにやさしいまちづくりネットワーク 市民フォーラム
1月	10 コミュニケーション部会	6 ニューイヤーコンサート(募金活動) 14 天神駅前街頭募金 20 資金開発会議	14 こぼら新年会
2月	7 コミュニケーション部会	4 博多管弦楽団募金活動	13 子どもにやさしいまちづくりネットワーク
3月	13 コミュニケーション部会	3 資金開発会議 15 支援会員感謝の会(企業団体) 17,18 陶磁器フェア募金活動	12 ファミリーシップふくおかフォーラム 13 子どもにやさしいまちづくりネットワーク